

【一】次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（50点）

僕は書籍のデザインを手がけることが多く、物事をそういう形にまとめることが好きでもある。しかし今日、情報テクノロジは加速度的に進化し、情報の形も様々になった。そんな状況にあっては、書籍はもはやメディアとしての主役を降りたのだと考えるべきかもしれない。情報を流通させる速度や密度、そしてその量などに関しては、書籍と電子メディアでは既に比較にならない。しかし一方で、書籍の役割そのものがついでに去ったとも考えにくい。おそらくは、このあたりで一度、僕らは「書籍とは何か」ということを再確認する必要があるだろう。それをしないまま、従来の方法で書籍のデザインを続けていくのはいかにも時代認識が甘いように感じるのである。

冷静に眺めてみると、紙という素材はメディアとして随分と重い責任を担わされてきた。特に情報の流通速度がどんどん加速していく時代においては、紙はマテリアルである前に「無意識の平面」であったといつていいかもしれない。万年筆で手紙を書くにも、プリンターで画像を出力するにも、まずはニュートラルな白い平面としての紙がそこにあった。それは1対√2という「A」な比率を持つ白い画面で、物質性はむしろ⑧シャシヨウされ、映像や文字を運搬する「B」な媒介物として認識されていた。世界の三大発明として紙が与えられている名譽もまさにそういうニュートラルなメディアとしての性質に対してであって、天然物に触れる喜びを指先に運んでくれる物性に対してではない。

①そういう観点から考えると、今日、紙はメディアの主役を降りて、実務的な任務から解放されたおかげで、再び本来の「物質」として魅力的にふるまうことが許されるようになったのではないか。僕はそんなふうと思うのである。

確かに書籍は、一定の情報をストックするメディアとしては大袈裟かもしれない。重いし、かさ張るし、汚れるし、風化もする。デジタルデータにして格納すればごく小さなメモリの中におさまる程度の情報が、わざわざ書籍の大きさに仕立てられているわけである。しかしながら情報は、大量にストックしたり高速で移動させたりするだけのものではない。むしろ、情報と個人の関係を冷静に⑨ドウサツするならば、⑩情報をいかにじつくりと味わえるかというポイントが重要になってくるのである。書籍に関していうならば、「C」の方が、「D」より人に心地よい使用感と満足をもたせられるかもしれないのである。

僕は現在でも書籍というメディアが有効であると思うし、その効果は社会が考えているほど減退してはいないと考えている。

あなたが今、手にしているこの本にしてもそうだ。自分の頭から生まれ出た言葉の数々を、⑪エツランしやしやすい便利な場所においておけばいいのであれば、ウェブの中か、あるいはCDのようなものに格納するという方法もある。しかし僕はこうして本というメディアを選んで、それはこの情報を、紙に刷られた文字として味わっていたからであり、手ごたえのある重量を持った物質として人に手渡したいからである。また、電車の中で鞆から取り出して気

ままだにページをめくってもらいたいからであり、時間が経てば風化して骨董品になってくれるのがいいと思うからである。もちろん、デザイナーとして、みなさんの手のひらの中でこの本がよい雰囲気をも醸し出すように工夫してもいる。要するに、情報を右から左へと移すのではなく情報を慈しむという観点で書籍の魅力を意識している。

僕はノスタルジーに捉われて紙を鼻屑しているわけではない。僕は電子メディアが嫌いではないし、電子メールがないともはや⑥コンワークするほどに、既に情報技術とは深い関係を結んでしまった。だからこそ、紙メディアを用いる場合には、無意識にではなく、③はつきりとした意志を持ってこれと向き合いたいと思うのである。電子メディアの台頭のおかげで、紙はようやく本来の魅力的な素材としてふるまうことができるようになったのだ。

電子メディアが情報伝達の実質的な道具であるとすれば、書籍は「④情報の彫刻」である。だからこれからの書籍は、紙というメディアを選んだ以上、その物性がいかに生かされているかという評価にさらされることになるだろう。⑤これは紙にとっては幸福な課題である。

問一 傍線部③④のカタカナは漢字に改め、漢字には読みを記しなさい。(各2点)

問二 次の文は本文中に入るべきものである。最も適当な箇所に入れたときの、直前の七字を抜き出しなさい(句読点を含む)。(4点)

だからモニタースクリーンが常に身近に置かれるようになったとき、人々はその素材としての性質や魅力を考慮することなく「ペーパーレス」という言葉を口にしたのである。

問三 空欄A・Bにあてはまる語の組みあわせとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。(3点)

- | | | | | | |
|-----|------|------|-----|------|------|
| (ア) | A合理的 | B総合的 | (イ) | A理想的 | B典型的 |
| (ウ) | A合理的 | B抽象的 | (エ) | A具体的 | B機械的 |

問四 傍線部①とはどのような観点か、五〇字以内で説明しなさい(句読点を含む)。(8点)

問五 傍線部②について、「情報を味わう」とほぼ同内容の表現を本文中から抜き出しなさい。(4点)

問六 空欄C・Dにあてはまる語句として最も適当なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。(各3点)

- | | |
|-----|-------------------------------|
| (ア) | 軽量化され、より便利になった情報。 |
| (イ) | 適度な重さや手触りを持った素材を用いて表現された情報。 |
| (ウ) | 懇切丁寧に説明が施された情報。 |
| (エ) | 小さく格納されて存在感の希薄になった情報。 |
| (オ) | 高速で移動させたりするのみではない情報。 |
| (カ) | 正確さに十分配慮されている情報。 |
| (キ) | 便利ではないが味わい深い情報。 |
| (ク) | かさばったり汚れたりする素材をあえて用いて表現された情報。 |

問七 傍線部③について、「はっきりとした意志で向き合う」とは「紙メディア」のどのような点を生かすことなのか、説明しなさい。(5点)

問八 傍線部④とはどのようなことか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。(3点)

- (ア) 書籍はもはや実質的な道具ではないのだから、生活の飾りつけとして生かせるという点。
- (イ) 素材を生かした情報伝達を行い、その情報が失われることのないよう留めておけるという点。
- (ウ) 電子メディアにはない魅力として書籍は、情報に新たな解釈を加えるはたらしができるという点。
- (エ) その物質性を通して情報を受けとめ、解釈するといった、情報の存在を感じさせるという点。

問九 傍線部⑤について、なぜ「幸福な課題」と言えるのか、説明しなさい。(7点)